

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第100号 〔2017年11月 号〕

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第100号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

現地派遣員 神谷看護師 任期終了の挨拶と帰国報告会のお知らせ

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



現地派遣員 神谷看護師 任期終了の挨拶と帰国報告会のお知らせ

みなさまこんにちは。カレン州のパアンより神谷です。
今、私はパアンで開催されているワークショップに参加するために、ミャンマーにきています。

9月末をもちまして、JAMからの現地派遣員の任期を終了いたしました。2015年の8月からの約2年間、みなさまからのあたたかいご支援、応援のお言葉を頂き励まされながらクリニックでの活動を行うことができましたことに心より感謝申し上げます。



私が派遣されていた2年間で、メータオ・クリニックは大きな変化がありました。
まずは、クリニックでスタッフ対象の看護研修が始まった事。そして、クリニックの移転。今は大きな財政難の危機に直面しています。難民キャンプ住人のミャンマーへの帰還が進められている中で、来年からはタイ国内でのミャンマー人移民労働者の取り締まりが厳しくなり、メソトの様子もまた変化し続けています。

先日、CDC校での音楽クラブの活動を一緒にしてきたメータオ・クリニックスタッフのデザインウーさんとお話しする機会がありました。

彼の母親は、3番目のこどもを出産するときに出血が止まらずに亡くなってしまったそうです。また、その時に生まれた妹もまた数ヶ月後には病気で亡くなってしまったとの事でした。「村には医療設備が整っていないため、医者に診てもらうには遠くまで時間をかけて行かなくては行けないんです、だから今の自分の社会福祉の仕事はとても好きだ」と話してくれました。

また、ワークショップで訪れたカレン州の村には政府の学校がなく、村にあるカレン州で運営している高校を卒業しても大学に進学することができないとのこと。「だから、メソトにある移民学校に行って海外の大学で勉強するチャンスを得たい」と話してくれた生徒さんがいました。

やはり、その村にも医療設備はなく、メータオ・クリニックで働いていた元スタッフの住人が村人たちの治療をしているようでした。

また、今、娘さんがメータオ・クリニックで働いているという高齢の男性にお会いしました。ちょうど、メータオ・クリニックで目を診てもらって今日帰ってきたばかりとのこと。メータオ・クリニックは、ミャンマー国内での村人の健康も支えていることを深く実感しました。



日本に帰ってからは、地域での障がいのある方の生活をサポートする仕事をしながら、日本のJAM事務局での活動も続けていく予定です。

改めまして、この2年間現地派遣員としてメソトでの活動を支えて下さいました全ての皆さまに深く御礼申し上げます。



メータオ・クリニック支援の会（JAM）ではグローバルヘルス合同大会 2017@東京大学にあわせて、2017/11/25（土）15:30-17:00 にクリニックで2年間の活動を終えた現地派遣員 神谷看護師の帰国報告会を開催します！

当会の活動もうすぐ10年を迎えます。

またゲストスピーカーとして、2006年からタイ-ミャンマー国境で撮影を続けてきたドキュメンタリー映画監督：松林要樹氏をお招きし、タイ-ミャンマー国境について対談を予定しています。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

1. 日時 平成29年11月25日（土） 15:30～17:00
2. 場所 グローバルヘルス合同大会2017自由集会会場
第8会場：ダイワユビキタス学術研究館
3階 ダイワハウス石橋信夫記念ホール
（東京大学本郷キャンパス内）

※学会会場での開催ですが、学会員に登録する必要はありません。どなたでもご参加いただけます。

<ダイワユビキタスホールへの交通アクセス>

- ・地下鉄丸の内線「本郷三丁目」駅下車徒歩8分
- ・地下鉄大江戸線「本郷三丁目」駅下車徒歩6分
- ・地下鉄千代田線「湯島」駅または「根津」駅下車徒歩8分
- ・地下鉄南北線「東大前」駅下車徒歩1分
- ・地下鉄三田線「春日」駅下車徒歩10分

※参加者用の駐車場のご用意はありません。公共交通機関のご利用をお願い致します。

3. 参加費 無料

4. 申込方法

参加ご希望の方は、お手数ですが、

- (1) 氏名 (2) 住所 (3) 所属 (4) 電話番号
- (5) パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス
- (6) 賛助会員の有無 をご記入のうえ、前日までにメールでご連絡ください。

メールタイトルは「活動報告会申込み」とご記入をお願いいたします。

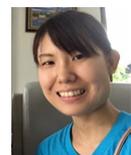
support@japanmaetao.org（担当：前川）

皆様のご参加をお待ちしております！

主催：NPO法人 メータオ・クリニック支援の会

メソトマンスリー

【メソト＝齊藤 つばさ】



最近のメソット

いつもご支援いただきましてありがとうございます。

メソットは乾季になりました。通勤途中の砂利道の砂ぼこりで前が見えないときがあります。



今年の7月から始まった看護研修2期生の研修から、病棟実習についてお伝えします。

研修内容は座学（3か月）、病棟実習（計2か月）、外病院での研修（5週間）、技術チェックの予定です。9月末で3ヶ月の座学が終わり10月から研修生が4グループに分かれて、各科の特徴を学ぶために1週間ごとに外科・内科・小児科・産科をまわりました。私はオペ室の経験ということで、外科病棟を担当しました。

外科での研修内容は、

1. 創部の観察(どのような種類の傷か、出血しているかなど状態をみる)
2. 創部のアセスメント(感染の有無・どんな処置が必要かなどを考える)
3. 清潔・不潔を理解した操作(どこが汚いところで、どこを持ってばよいかなど)
4. 創部処置の介助(ガーゼを渡す、包帯の用意など)
5. 創部処置(実際にガーゼ交換、消毒などを行う)などの指導しました。

全て座学で習ったことですが、実際に目の前の患者さんに処置を行うとなると、「臭いがある・血がだらだら出ている・患者さんが痛くて叫ぶ」など、授業で聞いたり写真を見たことと異なる点がたくさんあります。

そのため、研修生が患者さんの反応にびっくりして固まったり焦って間違えてしまうので、実際に患者さんへ処置を行う前に研修生同士で練習を行いました。(写真：1, 2)



(↑写真1 (2枚とも) :創部のアセスメントをしている様子)



(↑写真2 : 創部処置の練習)



手順を守って処置を行うのはもちろんですが、患者さんの前で「汚い」・「くさい」と言わない、処置のための露出はできるだけ小さくするなど、患者さんのプライバシーへの配慮の部分は練習ではなかなか気づき辛いところです。創部処置の練習中に、研修生が忘れやすいところをわざとやると、

私：処置室のドアを開けたままで外から見える状態で処置を始める。

研修生：ドアを閉めないとお客さんがほかの人に見えてしまう。

私：患者さんの傷口を触った手袋で、ベットや患者さんの服を触る。

研修生：その手袋はもう汚いので、いろいろなところを触ると汚染が広がってしまう。処置が終わったら手袋を取ってから次の行動をする。など

研修3日目くらいになると、間違えているところやどうしてダメなのか？を各々言ってくれます。研修生一人ひとり気づく点が異なっていて、それがその人の看護観だと思うので、グループ全員で共有してより広い考え方を学べてよいなと感じました。

また、研修生によっては以前の職場が外来や学校保健部門で、病棟経験のないスタッフもいます。創部処置だけに特化するのではなく、基本的な病棟の仕事（物品の補充や環境整備など）も習慣化できるように日々の研修スケジュールに組み込みおこないました。（写真：3）



（↑写真3：毎朝の5S活動（整理・整頓・清潔・掃除・しつけ））

今回の研修は、創部処置に使用する薬品などが日本と異なっていることがあるので、私一人だけで教えるのではなく、病棟のスタッフと一緒に指導を行いました。研修生に教えるにあたり、「手指消毒を処置の前後に行う」などの基本的な感染予防の行動をスタッフも意識して行うようになり、病棟全体で手指消毒を行うタイミングの意識が改善されてきました。



国内から

日本の地域で行う保健活動

【埼玉＝淵上】

JAMの設立当初からスタッフをさせていただいております、淵上と申します。
いつも皆様から温かいご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。

私は普段、埼玉県自治体で保健師として働いています。地区担当制を採用しており、受け持った地域にお住まいの妊婦さんから乳幼児、成人・高齢者の方々、すべてのライフステージにある住民の皆さんを対象に訪問や健康相談などの保健活動を行っています。また、保健センターなどの会場で乳幼児健診や育児相談会、成人・高齢者向けの教室運営、地域住民と一緒にイベントの開催など、幅広い分野に携わっています。当市では、事業担当制からこの地区担当制に移行して3年目。昨年の1年間は育休をいただいておりますので、私は2年目の活動となります。今回は、中でも最も保健師らしい活動と言えるかもしれない「地区活動」についてご紹介します。

私が受け持つ地区は人口約2万人、商業施設の多い市街地とはだいぶ雰囲気が異なり、農業が盛んな地域です。公民館で健康教室を終えた後、階段の踊り場から見える夕焼け色に染まった広大な畑を目にする度、心が和みます。

さて、保健師が行う地区活動とは、住民の皆さんがより健康的に生き生きと自分らしく生活できることを目指して活動するものです。自治会長や民生委員の会議にお邪魔して保健師活動をPRしたり、地域の行事や高齢者の自主グループで健康に関するお話をして啓発したりと、アプローチは様々です。誰とつながって、どこで啓発すると効果的か…個々の保健師の力量にかかってくる所もありますので、創り上げていく楽しみと同時に、決められた形がないため悩みも多い仕事です。

そんな地区活動の中で、先日ちょっと面白い出来事がありました。憧れていた国際保健のフィールドワークにも通じているようなワクワクした経験をお伝えしたいと思います。

市内でも先駆的な取り組みとして、担当地区にある薬局が提供するオープンスペースを活用し、地元の自治会、民生委員が健康講座を開催することになりました。地域の住民さんの意見をもとに、社会福祉協議会、地域包括支援センターがサポートに回ります。そして、保健師にも協力してくれないかと相談があり、私も協力させていただくことになりました。「健康講座」なので、保健師の方が慣れていると当然思われてしまいますが、そこはグッと堪えて私からの意見は最小限とし、できる限り住民の方が主体となって考えていただくよう関わりました。最初に健康測定として血圧と体組成を測定し、次に地元の保健推進員さん（保健センターで研修を受けている方々）による健康体操、最後に地域に根ざした病院の院長先生による健康講話、以上の3部構成です。途中休憩で保健師から「今年の健診は受けましたか？」と健診の受診を勧めるPRの時間をいただきました。それから、保健師の分担として、健康測定の記録用紙を薬局さんと調整して作ることになりました。

さて、当日。直前まで申込者がいないと聞いていましたが、自治会長や民生委員の呼びかけでオープンスペースいっぱい人が集まりました。地域のつながりやロコミは私たちが市報に載せたり、チラシを配るのに比べて驚くほどの効果です。人が集まってきてホッとしたのも束の間、薬局の担当者さんより、体組成測定は「年齢」と「身長」を毎回入力する手間があるから、時間がかかるのでなくしましょうか？との提案。「え～？測定用紙の項目がガラ空きになるよ！」と私は心配になりましたが、主催の住民さんは「まあ、仕方ないか、じゃ今回はなしで」とあっさり。そうこうしているうちに、人の流れがうまく作れず、会場内はごった返しに。住民さんの意見で講義形式に椅子を並べたため、測定がまだの人、終わった人の区別が付きません。私は少しずつ椅子を移動して未測定の方と終わった方が分かれて座



れるよう調整しました。なんとか、予定より10分遅れで測定が全員終了し、次のプログラムへ進みました。民生委員の代表の方が、「〇〇地区の健康寿命を日本一にすることを目指しています！」と明言。そのための活動として講座を定期的に行きたいと参加者へ伝え、とても説得力のある挨拶でした。そして、笑いを誘いながら楽しく体操を教える保健推進員の皆さん。スペースの関係でいつもは立って行う体操を座って行うバージョンに変更するアドリブもできる素敵な皆さんです。最後は、院長先生のお話。住民の皆さんに伝わりやすく、専門用語を使わずに健康づくりの基本、「運動と食事のバランスが大事」としっかりとメッセージを届けていました。

内容は充実していましたが、市が主催のものだったら正直クレームが出そうな、行き当たりばったりな進行でヒヤヒヤしっぱなしの私でしたが、空欄だらけの測定用紙でも苦情はなく、参加者の皆さん満足そうに帰って行かれました。

住民の方が住民の方のために開いた健康講座。多少のアクシデントがあっても、手作りな感じがあっただけだと終わってから振り返りました。「あー、何か似ている。そうだ、国際保健のフィールドワークに似ている」と思いました。実際に現地で経験したことはありませんが、国際保健の講座で何度も習ったことがあります。村の有力者など地域で核となる人物に協力してもらい、自分たちの力で活動できるようサポートする。場所は違えど、日本で同じような活動ができていることを嬉しく感じました。そして、「じゃ、今回はなしで」と急遽予定を変えるゆるった感じも住民の活動ならではの思うとほっこりとした気持ちになります。

保健師の仕事は分野が広く、またそれぞれ奥が深く、個別支援から集団支援もあり、多岐多様に渡っています。仕事を持ち帰ることも多々あり、育児との両立に悩みながらの日々ですが、保健師にしかできないこと、出会えない人がいると思うと、やりがいがあります。

最後に、忙しくておろそかにしがちな子育てについて。

最近、ベビーマッサージならぬキッズマッサージにハマっています。1歳から7歳までの3人の子どもたちに、できるときにスリスリとスキンシップを図り、一緒にいられない時間を埋めているつもりです…。気持ちよくてウツリする子どもたちの表情が私へのご褒美です。

編集後記

今回は、記念すべき100号を作成することができました。これもひとえに皆様のあたたかいご支援のおかげでここまでやってくることができました。これからも一歩一歩、支援を重ねていけるようがんばってまいりますので今後とも、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

今月は、神谷看護師の帰国報告会も開催します。会場は、東京大学本郷キャンパスの中にあるダイワユビキタス学術研究館のホールです。今回の報告会は、学会の一部で開催されますが、この報告会への参加は学会の参加費は不要ですので、たくさんの皆様におこしいただければと思っています。直前での申し込みでもかまいませんので、どうぞよろしくお願いいたします。

次号の予定

次号は、12月中～下旬ごろ配信の予定です。

新しく、インスタとツイッターも開設しました。

ホームページも含め、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAM



